

2-7-2 留萌南部森林管理署

表 2-7-2 の 20 調査地について記載した。

表 2-7-2 留萌南部森林管理署の調査地一覧

No	エリア プロット	SPUE 2009	SPUE 累積	地形	林相	林床植生	毎木 区数	稚樹 区数	樹皮剥ぎ		食痕率		
									小径 木	大径 木	下 枝	稚 樹	サ サ
16	留萌南01	10.0	7.6	尾根	針広混交林	オオカメノキ	1	1	0%	0%	3%	5%	0%
17	留萌南02	5.6	5.0	平坦(一部沢)	針広混交林	クマイザサ	2	4	0%	6%	14%	27%	11%
18	留萌南03	5.9	4.7	斜面	広葉樹林	クマイザサ	1	1	4%	11%	4%	25%	0%
19	留萌南04	-	6.2	平地	溪畔林	クマイザサ	1	1	38%	8%	30%	20%	63%
20	留萌南05	4.0	4.2	斜面	広葉樹林	クマイザサ	1	1	5%	3%	0%	36%	0%
21	留萌南06	-	3.1	斜面	針広混交林	クマイザサ	2	2	0%	0%	5%	0%	0%
22	留萌南07	-	4.7	平坦地	広葉樹林	クマイザサ	1	2	6%	0%	28%	28%	50%
23	留萌南08	-	-	尾根上	広葉樹林	クマイザサ	1	1	6%	2%	0%	11%	5%
24	留萌南09	-	7.5	尾根	針広混交林	チシマザサ	1	2	4%	0%	9%	13%	0%
25	留萌南10	4.7	6.6	尾根 ~斜面	針広混交林	クマイザサ	1	1	4%	3%	0%	11%	10%
26	留萌南11	-	7.5	緩斜面	広葉樹林	クマイザサ	2	1	6%	3%	6%	0%	0%
27	留萌南12	2.5	6.6	平坦地	広葉樹林	クマイザサ	1	2	11%	0%	0%	0%	0%
28	留萌南13	6.8	5.8	斜面	広葉樹林	クマイザサ	1	1	20%	8%	21%	13%	5%
29	留萌南14	3.0	1.6	尾根	広葉樹林	クマイザサ	2	1	0%	0%	0%	0%	0%
30	留萌南15	-	4.8	尾根 ・平坦	広葉樹林	クマイザサ	2	4	0%	0%	0%	0%	0%
31	留萌南16	-	4.8	緩斜面	針広混交林	クマイザサ	2	4	0%	0%	0%	0%	35%
32	留萌南17	-	-	斜面	広葉樹林	クマイザサ	1	1	15%	0%	0%	0%	0%
33	留萌南18	9.7	5.7	斜面中 ~下部	広葉樹林	クマイザサ	1	1	2%	0%	0%	27%	0%
34	留萌南19	-	4.0	尾根	針広混交林	チシマザサ	2	1	0%	0%	14%	10%	0%
35	留萌南20	1.0	2.1	平坦地	針広混交林	オオカメノキ	1	1	0%	0%	0%	0%	47%

留萌南部01の結果概況

地区名:RS01古丹別 2100林班い小班

8月10日調査実施

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度(SPUUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
針広混交林	尾根	北東	1	1	2009年 10.0	累積 7.6	糞
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	72 /200㎡	67.3 ㎡/ha	31 /200㎡ 食痕: 1/31 3%		23 /200㎡	0/54 0%(0%)	
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 ㎡/㎡[全体・忌避種・可食種]
	76 /200㎡	2/38 5%		20	7%・197.1・0%	0.72 ・0.24(0.8)・ 0.31	

※稚樹は樹高20cm以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	総BA(㎡)	下枝あり(本)	樹皮剥(本)
ミズナラ	17	7,652	5	
トドマツ	18	2,753	8	
アカイタヤ	12	1,855	8	
シナノキ	5	501	3	
コシアブラ	2	447		
全体	72	13,454	39	

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	食痕あり(本)
ヤマウルシ	19	
シナノキ	9	2
アカイタヤ	7	
トドマツ	4	
アズキナシ	2	
全体	42	2

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数	現存量(㎡/㎡)	被度(%)	平均高さ	食痕有無
オオカメノキ	13	0.188	16.4	76.4	○
クマイザサ	6	0.108	2.1	233.2	
ハイヌガヤ	15	0.098	11.6	68.3	
エゾユズリハ	11	0.098	19.5	46.0	
チシマザサ	3	0.064	5.0	125.0	
全体		0.717	60.5		

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



調査区留萌南部01は、下霧立林道沿いの針広混交林に設定している。尾根上で、広葉樹はミズナラ・アカイタヤが多く、針葉樹はトドマツが見られる。林内ではシカの糞を確認している。下枝がある立木は、ミズナラ・アカイタヤなど31本/200㎡であり、そのうち3%に食痕が見られる。樹皮剥ぎは確認されなかった。

稚樹は、ヤマウルシを中心に76本/200㎡と比較的密度が高く、そのうち5%に食痕が見られる。林床は、全体被度が60.5%を占め、各出現種の被度は全体的に低く、散生する。食痕はオオカメノキに見られる。現存量は、ササ類を除く可食種の割合が高く、0.31と比較的大きな値である。下枝、稚樹の食痕が僅かに確認されるが、樹皮剥ぎは確認されておらず、エゾシカの被食による影響はほとんど見られないと思われる。

留萌南部02の結果概況

地区名:RS01古丹別 2091林班た小班

7月23日調査実施

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
針広混交林	平坦(一部沢)	-	2	4	2009年 5.6	果積 5.0	なし
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	18 /200㎡	34.8 m ² /ha	11 /200㎡	食痕: 2/11 14%	0.5 /200㎡	2/29	7%(0%)
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率		林床種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]	
	8 /200㎡	4/15	27%			23	67%・138.2・11%

※稚樹は樹高20cm以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	総BA (cm ²)	下枝あり(本)	樹皮剥(本)
ハルニレ	14	6,282	13	1
ヤチダモ	4	3,319	3	
シナノキ	4	1,942	4	
トドマツ	7	1,230	1	
キハダ	3	921		
全体	36	13,910	23	2

※総BAは胸高直径断面面積の総和。

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	食痕あり(本)
ヤマグワ	7	3
シナノキ	3	
オヒョウ	2	1
シウリザクラ	2	1
ハルニレ	1	
全体	15	5

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高さ	食痕有無
クマイザサ	17	0.927	66.1	135.6	○
オオウバユリ	2	0.032	2.3	102.5	
ジュウモンジシダ	8	0.026	5.3	42.9	
コンロンソウ	20	0.022	5.7	37.9	
チシマザサ	2	0.013	0.8	159.5	
全体		1.094	80.5		

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



調査区留萌南部02は、アナトロマナイ林道沿いの針広混交林に設定している。平坦地で、広葉樹は、ハルニレやヤチダモなどが見られる。下枝がある立木は、ハルニレ・ヤチダモなど11本/200㎡であり、食痕はハルニレ・ヤマグワに見られ、14%を占める。樹皮剥ぎは、古い樹皮剥ぎのみで、7%に見られる。

稚樹は、ヤマグワを中心に8本/200㎡であり、食痕率は27%と比較的高かった。林床は、全体被度が80.5%で、被度はクマイザサが60%を越え優占する。他にはオオウバユリやジュウモンジシダ、コンロンソウなどが散生する。食痕はクマイザサに見られ、食痕率は11%を占める。現存量は、ササ類を除く可食種、忌避種ともに小さい値である。下枝、稚樹、ササの食痕が確認され、新規の樹皮剥ぎも確認されることから、エゾシカの被食による影響が出始めていると思われる。

留萌南部03の結果概況

地区名:RS01古丹別 2002林班い小班

8月09日調査実施

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
広葉樹林		斜面	北西	1	1	2009年 5.9	累積 4.7	糞
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率			小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	92 /200㎡	31.9 ㎡/ha	51 /200㎡	食痕: 2/51	4%	45 /200㎡	7/89	8%(0%)
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 ㎡/㎡[全体・忌避種・可食種]	
	80 /200㎡	10/40	25%				37	32%・90.6・0%

※稚樹は樹高20cm以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	総BA (cm ²)	下枝あり(本)	樹皮剥(本)
ミズナラ	4	2,227	1	
ハルニレ	12	1,090	6	4
エゾイタヤ	22	983	12	
シナノキ	15	627	13	
サワシバ	17	589	11	
全体	92	6,371	53	7

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	食痕あり(本)
シナノキ	19	4
エゾイタヤ	7	
ツリバナ	4	3
サワシバ	3	
トドマツ	2	
全体	42	10

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数	現存量 (㎡/㎡)	被度 (%)	平均高さ	食痕有無
クマイザサ	15	0.190	28.3	64.0	
チシマザサ	7	0.079	5.1	127.0	
ハイヌガヤ	5	0.031	6.8	43.0	
サッポロスゲ	4	0.017	3.5	45.3	
サラシナショウマ	4	0.016	2.6	52.3	
全体		0.419	52.5		

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



調査区留萌南部03は、松下沢林道沿いの広葉樹林に設定している。斜面地形で、広葉樹は、ミズナラやハルニレなどが見られ、林内ではシカの糞を確認している。下枝がある立木は、シナノキやエゾイタヤなど92本/200㎡であり、そのうち4%に食痕が見られる。樹皮剥ぎは、古い樹皮剥ぎのみで、ハルニレやヤマグワの樹皮剥ぎが見られる。

稚樹は、シナノキやエゾイタヤなど80本/200㎡が生育し、食痕率は25%を占める。林床は、全体被度が52.5%で、クマイザサが優占し、チシマザサが混在する。他には忌避種とされるハイヌガヤやサッポロスゲが散生する。食痕は確認されなかった。ササ類を除く可食種現存量は0.07で、忌避種は0.08といずれも小さい値である。下枝、稚樹の食痕が確認され、古い樹皮剥ぎも確認されることから、エゾシカの被食による影響が出始めていると思われる。

留萌南部04の結果概況

地区名:RS01古丹別 2066林班と小班

8月09日調査実施

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度(SPUUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
溪畔林	平地	-	1	1	2009年 -	累積 6.2	足跡
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	45 /200㎡	39.6 ㎡/ha	20 /200㎡	食痕: 6/20 30%	8 /200㎡	5/30	17%(3%)
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率		林床 種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 ㎡/㎡[全体・忌避種・可食種]	
	142 /200㎡	14/71	20%			24	61%・152.9・63%

※稚樹は樹高20cm以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	総BA(㎡)	下枝あり(本)	樹皮剥(本)
シラカンバ	15	3,460		1
ケヤマハンノキ	11	2,925	6	
ハルニレ	5	848	4	1
キハダ	2	294		
オノエヤナギ	1	235	1	
全体	45	7,918	20	6

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	食痕あり(本)
エゾイタヤ	34	14
ヤマグワ	18	
オヒョウ	10	
ケヤマハンノキ	5	
アオダモ	1	
全体	71	15

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数	現存量(㎡/㎡)	被度(%)	平均高さ	食痕有無
クマイザサ	19	0.970	61.0	152.9	○
エゾイラクサ	7	0.037	2.7	74.4	
コンロンソウ	13	0.026	4.5	36.1	
ヨブスマソウ	3	0.025	1.3	134.7	
ウド	1	0.020	1.5	132.0	
全体		1.134	69.5		

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



調査区留萌南部04は、三毛別林道沿いに位置する溪畔林に設定している。平地で、シラカンバが多くみられ、林内では、シカの足跡を確認している。下枝がある立木はケヤマハンノキやハルニレを中心に20本/200㎡見られ、そのうちの30%に下枝の食痕が見られる。樹皮剥ぎは、古いものを含めると17%を占める。

稚樹はエゾイタヤなど142本/200㎡と比較的高密度に生育し、そのうち20%に食痕が見られる。林床は、全体被度が69.5%で、クマイザサが優占し、ササ類食痕率は63%と高い。他に、忌避種とされるエゾイラクサ、可食種のコンロンソウやヨブスマソウなどが散生する。ササを除いた現存量は、可食種、忌避種ともにほぼ同程度である。下枝食痕率とササ類食痕率では、留萌南部森林管理署管内の詳細影響調査地では最も高い食痕率である。下枝食痕が30%、樹皮剥ぎ率も10%を超え、稚樹食痕率では20%を超えることから、全体にエゾシカの被食による影響が強くてきていると思われる。

留萌南部05の結果概況

地区名:RS02奥古丹 2186林班お小班

8月09日調査実施

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度(SPUUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
広葉樹林	斜面	南西	1	1	2009年 4	累積 4.2	なし
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	51 /200㎡	29.4 ㎡/ha	27 /200㎡ 食痕: 0/27 0%		19 /200㎡	2/46 4%(0%)	
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 ㎡/㎡[全体・忌避種・可食種]
	88 /200㎡	16/44 36%		26	71%・138.0・0%	1.15 ・0.04(0.9)・ 0.05	

※稚樹は樹高20cm以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	総BA(㎡)	下枝あり(本)	樹皮剥(本)
ハルニレ	15	2,855	8	
トドマツ	5	924	3	
オヒョウ	3	788	1	
キハダ	4	359		
ハリギリ	2	255		1
全体	51	5,887	30	2

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	食痕あり(本)
ヤマグワ	30	16
オヒョウ	11	
ホオノキ	2	
ヤチダモ	1	
全体	44	16

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数	現存量(㎡/㎡)	被度(%)	平均高さ	食痕有無
クマイザサ	20	0.938	69.5	134.6	
チシマザサ	3	0.120	6.0	198.7	
ジュウモンジシダ	18	0.030	7.9	32.9	
エゾアジサイ	4	0.024	3.8	45.5	
コンロンソウ	16	0.017	3.4	46.4	
全体		1.151	78.5		

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



調査区留萌南部05は、小川林道沿いに位置する広葉樹林に設定している。斜面地形で、ハルニレが多く見られる。下枝がある立木はハルニレなど27本/200㎡あり、食痕は見られない。樹皮剥ぎは古い樹皮剥ぎのみで、4%に見られる。

稚樹はヤマグワ、オヒョウなど88本/200㎡と比較的高密度に見られ、食痕は36%と高い割合で見られる。これは留萌南部森林管理署管内の詳細影響調査地では最も高い食痕率である。林床はクマイザサが優占し、チシマザサが混じる。そのほかでは忌避種とされるジュウモンジシダが目立つ。食痕は確認されなかった。ササ類を除いた可食種の現存量、忌避種ともに小さい値を示している。下枝食痕や新規の樹皮剥ぎは確認されないが、古い樹皮剥ぎが確認され、稚樹が30%を越えることから、全体にエゾシカの被食による影響が出始めていると思われる。

留萌南部06の結果概況

地区名:RS02奥古丹 2159林班の小班

8月03日調査実施

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
針広混交林	斜面	南	2	2	2009年 -	果積 3.1	糞
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	31 /200㎡	38.2 m ² /ha	11 /200㎡ 食痕: 1/11 5%		5.5 /200㎡	0/44 0%(0%)	
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m ² /m ² [全体・忌避種・可食種]
	23 /200㎡	0/23 0%		21	20%・109.1・0%	0.58・0.17(1.6)・0.11	

※稚樹は樹高20cm以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	総BA (cm ²)	下枝あり(本)	樹皮剥(本)
トドマツ	15	8,755	6	
ミズナラ	9	2,333	6	
エゾノバッコヤナギ	3	928	1	
ウダイカンバ	2	869		
ハリギリ	2	617		
全体	62	15,283	28	

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	食痕あり(本)
ヤマウルシ	17	
トドマツ	3	
ハウチワカエデ	2	
ミズナラ	2	
オニグルミ	1	
全体	26	

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数	現存量 (m ² /m ²)	被度 (%)	平均高さ	食痕有無
クマイザサ	19	0.227	19.8	101.3	
エゾユズリハ	13	0.122	23.6	44.9	
オオカメノキ	6	0.081	7.3	66.8	○
チシマザサ	9	0.072	5.5	124.8	
ハイヌガヤ	12	0.038	7.3	46.4	
全体		0.577	57.5		

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



調査区留萌南部06は、小川林道沿いの針広混交林に設定している。斜面で、針葉樹はトドマツ、広葉樹はミズナラが多く見られる。林内ではシカの糞を確認している。下枝がある立木はミズナラなど11本/200㎡で、食痕は5%に見られる。樹皮剥ぎは確認されなかった。

稚樹は、ヤマウルシなど23本/200㎡で、食痕は確認されなかった。林床は、全体被度が57.5%で、クマイザサが優占し、食痕はオオカメノキに見られる。その他に忌避種とされるエゾユズリハやハイヌガヤも目立つ。ササ類を除く可食種の現存量は0.17で、忌避種は0.04とわずかである。エゾシカの痕跡は見られ、下枝の食痕率がわずかに見られるものの、全体にエゾシカの影響はほとんど見られないと思われる。

留萌南部07の結果概況

地区名:RS02奥古丹 2121林班へ小班

8月03日調査実施

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度(SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
広葉樹林	平坦地	-	1	2	2009年 -	累積 4.7	なし
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	40 /200㎡	70.2 ㎡/ha	18 /200㎡ 食痕: 5/18 28%		16 /200㎡	1/31 3%(3%)	
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率		林床 種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 ㎡/㎡[全体・忌避種・可食種]	
	40 /200㎡	11/40 28%	15			67%・150.8・50%	1.04 ・0.02(0.6)・ 0.04

※稚樹は樹高20cm以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	総BA(㎡)	下枝あり(本)	樹皮剥(本)
ミズナラ	5	7,217		
ケヤマハンノキ	9	3,411	1	
ダケカンバ	8	2,855	3	
ハルニレ	1	303		
アカイタヤ	4	112	3	
全体	40	14,045	19	1

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	食痕あり(本)
ヤマグワ	15	8
ミズナラ	13	1
シナノキ	4	1
エゾイタヤ	3	
ハリギリ	3	
全体	40	11

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数	現存量(㎡/㎡)	被度(%)	平均高さ	食痕有無
クマイザサ	20	0.963	67.0	142.4	○
ウド	1	0.020	1.5	136.0	
ミヤマベニシダ	5	0.020	3.5	69.0	
チシマザサ	2	0.018	0.8	221.0	
ホウチャクソウ	5	0.007	1.8	38.2	
全体		1.045	72.5		

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



調査区留萌南部07は、道道霧立小平線沿いに位置する広葉樹林に設定している。平坦地で、ミズナラやケヤマハンノキが多く見られる。可食種のうち下枝がある立木はケヤマハンノキなど18本/200㎡見られ、そのうち食痕はアカイタヤやケヤマハンノキなど28%に見られる。樹皮剥ぎはハウチワカエデに1本見られ、3%を占める。

稚樹は、ヤマグワやミズナラなど40本/200㎡で、そのうちヤマグワを中心に11本に食痕が見られ、28%を占める。林床は、全体被度が72.5%で、クマイザサが優占し、食痕も見られ、ササ類食痕率は50%を占める。可食種の現存量は0.04で、忌避種の0.02より大きい値となっている。下枝、稚樹の食痕が30%近く確認され、ササ類食痕率も50%に達し、新規の樹皮剥ぎもわずかに見られることから、全体にエゾシカの被食による影響が出始めていると思われる。

留萌南部08の結果概況

地区名:R03小平

1151林班か小班

8月04日調査実施

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度(SPUUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
広葉樹林	尾根上	-	1	1	2009年	-	糞
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	121 /200㎡	42.9 m ² /ha	61 /200㎡ 食痕: 0/61 0%		69 /200㎡	5/103 5%(4%)	
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m ² /m ² [全体・忌避種・可食種]
	72 /200㎡	4/36 11%		30	49%・142.4・5%	1.18・0.13(0.5)・0.24	

※稚樹は樹高20cm以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	総BA (cm ²)	下枝あり(本)	樹皮剥(本)
トドマツ	16	2,902	5	
アカイタヤ	4	2,047		
エゾノバッコヤナギ	8	887		
エゾイタヤ	4	706	1	
ミズナラ	12	407	6	1
全体	121	8,589	66	5

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	食痕あり(本)
アズキナシ	8	2
エゾイタヤ	7	1
シナノキ	5	
オヒョウ	4	
ハルニレ	4	
全体	36	4

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数	現存量 (m ² /m ²)	被度 (%)	平均高さ	食痕有無
クマイザサ	19	0.611	45.0	134.4	○
チシマザサ	6	0.204	10.5	188.5	
ハイヌガヤ	9	0.115	9.3	113.6	
ハシバミ	6	0.094	7.5	121.8	
チシマアザミ	4	0.049	2.8	62.5	
全体		1.178	70.0		

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



調査区留萌南部08は、川上林道沿いに位置する広葉樹林に設定している。尾根上で、針葉樹はトドマツ、広葉樹はアカイタヤ、エゾノバッコヤナギなどの樹種からなる。林内ではシカの糞を確認している。可食種のうち下枝がある立木はエゾイタヤ、ミズナラなど61本/200㎡と多く、食痕は確認されなかった。樹皮剥ぎは古いものを含めると5%を占める。

稚樹は、アズキナシやエゾイタヤなど72本/200㎡が生育し、そのうち11%に食痕が見られる。林床は、全体被度が70.0%で、クマイザサが優占し、チシマザサが混在する。食痕はクマイザサに見られる。ササ類を除く可食種の現存量は0.24と比較的高く、忌避種の0.13に比べ、可食種の現存量が2倍近く占める。エゾシカの痕跡は見られ、樹皮剥ぎや稚樹の食痕がわずかであり、下枝の食痕は確認されないことから、全体にエゾシカの影響はほとんど見られないと思われる。

留萌南部09の結果概況

地区名:R03小平

1170林班は小班

8月05日調査実施

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
針広混交林	尾根	西	1	2	2009年 -	累積 7.5	なし
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	52 /200㎡	54.4 ㎡/ha	23 /200㎡ 食痕: 2/23 9%		24 /200㎡	1/37 3%(0%)	
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 ㎡/㎡[全体・忌避種・可食種]
	60 /200㎡	8/60 13%		15	40%・111.9・0%	0.84 ・0.16(1.1)・ 0.14	

※稚樹は樹高20cm以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	総BA (cm)	下枝あり(本)	樹皮剥(本)
トドマツ	12	5,601	6	
シナノキ	9	1,656	5	
ミズナラ	2	1,395		
アカイタヤ	2	1,049	1	
ダケカンバ	3	608	1	
全体	52	10,878	29	1

※総BAは胸高直径断面面積の総和。

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	食痕あり(本)
ハウチワカエデ	28	1
ミヤマガマズミ	18	6
シナノキ	12	1
トドマツ	8	
アズキナシ	2	
全体	68	8

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数	現存量 (㎡/㎡)	被度 (%)	平均高さ	食痕有無
チシマザサ	9	0.272	19.5	123.2	
クマイザサ	16	0.259	26.0	96.9	
オオカメノキ	9	0.101	12.0	61.2	○
ハイヌガヤ	13	0.083	11.3	61.0	
エゾユズリハ	7	0.056	8.5	51.3	
全体		0.836	68.0		

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



調査区留萌南部09は、バツタの沢林道沿いに位置する針広混交林に設定している。尾根上で、針葉樹はトドマツ、広葉樹はシナノキ、ミズナラなどの樹種からなる。可食種のうち下枝がある立木は23本/200㎡で、その9%に食痕が見られる。樹皮剥ぎは古いもののみで、3%見られる。

稚樹は、広葉樹ではハウチワカエデやミヤマガマズミなど60本/200㎡で、そのうち13%に食痕が見られる。林床は全体被度が68.0%で、ササ類の被度が40%以上で優占する。他には忌避種とされるハイヌガヤやエゾユズリハが散生する。食痕はオオカメノキに見られる。可食種の現存量は0.14、忌避種の0.16よりわずかに小さい。稚樹食痕が10%を越えるが、エゾシカの痕跡は見られず、下枝の食痕率、樹皮剥ぎ率はわずかであり、全体にエゾシカの影響はほとんど見られないと思われる。

留萌南部10の結果概況

地区名:R03小平

1109林班ち小班

8月05日調査実施

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
針広混交林	尾根〜斜面	南西	1	1	2009年 4.7	累積 6.6	糞・足跡
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率 (新規)	
	92 /200㎡	66.3 ㎡/ha	35 /200㎡ 食痕: 0/35 0%		50 /200㎡	2/74 3%(0%)	
稚樹	本数密度	食痕数 (新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 ㎡/㎡ [全体・忌避種・可食種]
	38 /200㎡	2/19 11%		林床	26	54%・119.5・10%	0.93・0.12(1.0)・0.12

※稚樹は樹高20cm以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝あり (本)	樹皮剥(本)
トドマツ	16	8261	7	1
ミズナラ	13	2446	8	
ハリギリ	6	700	4	
エゾイタヤ	6	603	2	
アカイタヤ	11	449	5	
全体	92	13,260	42	3

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	食痕あり(本)
トドマツ	8	
アズキナシ	4	
エゾイタヤ	4	
ハウチワカエデ	4	2
ハリギリ	3	
全体	27	2

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数	現存量 (㎡/㎡)	被度 (%)	平均高さ	食痕有無
クマイザサ	19	0.597	49.0	113.8	○
ハイイヌガヤ	20	0.108	16.3	53.3	
チシマザサ	5	0.097	6.5	151.0	○
オオカメノキ	6	0.062	5.0	63.0	○
ハシバミ	3	0.028	1.6	71.7	
全体		0.929	69.0		

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



調査区留萌南部10は、佐藤の沢林道沿いに位置する針広混交林に設定している。尾根から斜面にかけての地形で、針葉樹ではトドマツ、広葉樹ではミズナラやハリギリなどが見られる。林内には、糞、足跡が確認されている。下枝がある立木は35本/200㎡で、食痕は確認されなかった。マツ・カンパ類を除く樹皮剥ぎは確認されなかった。

稚樹はアズキナシ、エゾイタヤなど38本/200㎡見られ、食痕は11%を占める。林床は、全体被度が69.0%で、クマイザサが優占し、次いで忌避種とされるハイイヌガヤが見られる。食痕は、クマイザサ、チシマザサ、オオカメノキで見られる。ササ類を除く可食種の現存量は0.12で、忌避種と同程度である。下枝の食痕は確認されなかったものの、稚樹、林床の食痕や古い樹皮剥ぎがわずかに見られることから、全体にエゾシカの被食による影響が出始めていると思われる。

留萌南部11の結果概況

地区名: R03小平

1065林班る小班

8月03日調査実施

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
広葉樹林	緩斜面	北東	2	1	2009年 -	累積 7.5	なし
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	25 /200㎡	48.3 ㎡/ha	8 /200㎡	食痕: 1/8 6%	7 /200㎡	1/32	3%(3%)
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率		林種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 ㎡/㎡[全体・忌避種・可食種]	
	28 /200㎡	0/14	0%	10	69%・133.7・0%	1.06	・0.09(4.5)・ 0.02

※稚樹は樹高20cm以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	総BA(㎡)	下枝あり(本)	樹皮剥(本)
トドマツ	11	8,444	4	1
エゾイタヤ	13	5,073	4	
ダケカンバ	2	2,047		
ミズナラ	1	1,655		
シラカンバ	4	831	3	
全体	49	19,336	20	2

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	食痕あり(本)
トドマツ	38	
ヤマウルシ	7	
ホオノキ	4	
シナノキ	3	
全体	52	

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数	現存量(㎡/㎡)	被度(%)	平均高さ	食痕有無
クマイザサ	20	0.943	69.0	133.7	
トドマツ	4	0.052	5.5	93.8	
ツタウルシ	18	0.041	14.3	25.3	
ツルアジサイ	13	0.017	9.0	17.7	
ヤマブドウ	2	0.001	0.5	23.0	
全体		1.058	77.0		

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



調査区留萌南部11は、小平ダム手前の作業道に位置する広葉樹林に設定している。緩斜面で、針葉樹はトドマツ、広葉樹はエゾイタヤ、ダケカンバなどの樹種からなる。林内には食痕、樹皮剥ぎ以外の痕跡は見られない。可食種のうち下枝がある立木は8本/200㎡で、そのうち6%に食痕が見られる。樹皮剥ぎは3%に見られる。

稚樹はトドマツが多く、可食種の広葉樹は28本/200㎡で、食痕は見られない。林床は、全体被度が77%で、クマイザサが優占し、他には忌避種とされるトドマツやツタウルシも散生する。可食種の現存量は0.02と小さく、忌避種よりも低い値である。稚樹食痕は見られないものの、下枝食痕や新規樹皮剥ぎがわずかに見られることから、全体にエゾシカの被食による影響が出始めていると思われる。

留萌南部12の結果概況

地区名:R03小平

1070林班ぬ小班

8月04日調査実施

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
広葉樹林	平坦地	-	1	2	2009年 2.5	累積 6.6	なし
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	39 /200㎡	29.0 ㎡/ha	28 /200㎡	食痕: 0/28 0%	9 /200㎡	1/39	3%(3%)
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 ㎡/㎡[全体・忌避種・可食種]
	17 /200㎡	0/17	0%	20	20	61%・133.4・0%	1.20・0.17(0.9)・0.19

※稚樹は樹高20cm以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	総BA(㎡)	下枝あり(本)	樹皮剥(本)
ハルニレ	25	2,422	21	1
ケヤマハンノキ	11	2,325	5	
エゾイタヤ	2	579	2	
ヤチダモ	1	479		
全体	39	5,805	28	1

※総BAは胸高直径断面面積の総和。

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	食痕あり(本)
ケヤマハンノキ	16	
エゾイタヤ	1	
全体	17	

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数	現存量(㎡/㎡)	被度(%)	平均高さ	食痕有無
クマイザサ	20	0.839	61.0	133.4	
チシマアザミ	7	0.071	5.3	110.9	
アマチャヅル	11	0.069	8.8	61.9	
ムカゴイラクサ	18	0.041	13.0	25.3	
アキタブキ	2	0.036	3.5	97.5	
全体		1.196	75.0		

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



調査区留萌南部12は、中記念別林道沿いに位置する広葉樹林に設定している。平坦地で、ハルニレが多く見られる。下枝がある立木はハルニレを中心に28本/200㎡で、食痕は見られない。樹皮剥ぎはハルニレに1本のみ見られる。

稚樹はケヤマハンノキとエゾイタヤの2種が17本/200㎡見られ、食痕は見られない。林床は、全体被度が75%で、クマイザサが優占する。他には忌避種とされるアマチャヅルやムカゴイラクサが散生する。食痕は確認されなかった。可食種の現存量は0.19と忌避種の0.17よりわずかに大きい値である。新規樹皮剥ぎはわずかに見られるものの、エゾシカの痕跡は見られず、下枝、稚樹、林床の食痕が見られないことから、全体にエゾシカの影響はほとんど見られないと思われる。

留萌南部13の結果概況

地区名:R04幌糠

1023林班わ小班

8月03日調査実施

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
広葉樹林	斜面	南	1	1	2009年 6.8	累積 5.8	足跡・シカ道
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	60 /200㎡	54.3 ㎡/ha	24 /200㎡	食痕: 5/24 21%	20 /200㎡	7/60	12%(12%)
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 ㎡/㎡[全体・忌避種・可食種]
	60 /200㎡	4/30	13%	20	53%	・96.1・ 5%	0.79 ・0.05(0.2)・ 0.23

※稚樹は樹高20cm以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	総BA(㎡)	下枝あり(本)	樹皮剥(本)
ミズナラ	11	5,325	2	
ハリギリ	3	1,433	2	
エゾイタヤ	8	1,021	4	
アカイタヤ	6	903	3	
ナナカマド	1	539	1	
全体	60	10,868	24	7

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	食痕あり(本)
ハウチワカエデ	17	4
シナノキ	5	
トドマツ	4	
エゾイタヤ	3	
ミズナラ	3	
全体	34	4

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数	現存量(㎡/㎡)	被度(%)	平均高さ	食痕有無
クマイザサ	20	0.514	52.5	96.1	○
オオカメノキ	14	0.136	20.0	69.4	○
ツタウルシ	16	0.027	11.8	23.1	
シナノキ	6	0.019	2.8	53.2	
コマユミ	6	0.018	2.8	51.2	○
全体		0.794	69.0		

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



調査区留萌南部13は、作業道沿いに位置する広葉樹林に設定している。斜面地形で、ミズナラが多く見られる。林内には、足跡、シカ道を確認している。下枝がある立木はミズナラ、ハリギリなど24本/200㎡で、食痕は21%を占める。樹皮剥ぎは新規のみで12%見られる。

稚樹はハウチワカエデを中心に60本/200㎡と比較的多く、食痕はハウチワカエデに4本見られ、13%を占める。林床は、全体被度が69.0%で、クマイザサが50%以上で密生する。食痕はクマイザサ、オオカメノキなどに見られる。ササ類を除く可食種の現存量は0.23と大きく、忌避種の0.05とわずかである。エゾシカの痕跡では、シカ道が確認され、下枝食痕率では20%、新規樹皮剥ぎ率では10%を超え、稚樹食痕率も10%を超えることから、全体にエゾシカの被食による影響が強くなってきていると思われる。

留萌南部14の結果概況

地区名:R04幌糠

176林班い小班

8月02日調査実施

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
広葉樹林	尾根	東	2	1	2009年 3	累積 1.6	なし
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	18 /200㎡	51.4 ㎡/ha	6 /200㎡ 食痕: 0/6 0%		0.5 /200㎡	0/29 0%(0%)	
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 ㎡/㎡[全体・忌避種・可食種]
	90 /200㎡	0/45 0%		28	68%・169.7・0%	1.45・0.13(1.5)・0.09	

※稚樹は樹高20cm以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	総BA (cm ²)	下枝あり(本)	樹皮剥(本)
ヤチダモ	8	5,994		
ナナカマド	5	4,301	1	
トドマツ	4	2,681	2	
オヒョウ	5	2,301	4	
ウダイカンバ	3	1,305		
全体	36	20,556	13	

※総BAは胸高直径断面面積の総和。

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	食痕あり(本)
ケヤマハンノキ	39	
トドマツ	6	
オヒョウ	3	
ハウチワカエデ	3	
全体	51	

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数	現存量 (㎡/㎡)	被度 (%)	平均高さ	食痕有無
クマイザサ	18	1.059	63.0	158.9	
チシマザサ	4	0.178	10.0	176.0	
ツタウルシ	10	0.039	11.8	31.2	
サカゲイノデ	3	0.034	4.5	62.0	
オオカメノキ	3	0.028	5.0	59.7	
全体		1.452	80.0		

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



調査区留萌南部14は、豊真布林道沿いに位置する広葉樹林に設定している。尾根上で、針葉樹はトドマツ、広葉樹はヤチダモやナナカマドなどが見られる。可食種のうち下枝がある立木はナナカマド、オヒョウなど24本/200㎡である。下枝食痕、樹皮剥ぎは確認されなかった。

稚樹はケヤマハンノキを中心に90本/200㎡で、食痕は確認されなかった。林床は、全体被度が80%を占め、クマイザサの被度が60%以上で優占し、チシマザサが混じる。食痕は確認されなかった。他には、忌避種とされるツタウルシ、サカゲイノデが散生する。可食種の現存量は0.09で、忌避種よりわずかに小さい。下枝、稚樹の食痕、樹皮剥ぎも確認されないことから、全体にエゾシカの影響はほとんど見られないと思われる。

留萌南部15の結果概況

地区名:R04幌糠

145林班ね小班

8月01日調査実施

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
広葉樹林	尾根・平坦	-	2	4	2009年 -	累積 4.8	なし
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	25 /200㎡	29.8 ㎡/ha	7 /200㎡ 食痕: 0/7 0%		2.5 /200㎡	0/48 0%(0%)	
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 ㎡/㎡[全体・忌避種・可食種]
	9 /200㎡	0/18	0%				

※稚樹は樹高20cm以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	総BA (cm)	下枝あり(本)	樹皮剥(本)
アカイタヤ	11	3,631	2	
シナノキ	6	3,536	3	
ミズナラ	13	2,217	5	
アズキナシ	3	1,044	1	
ハリギリ	8	831		
全体	50	11,910	15	

※総BAは胸高直径断面面積の総和。

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	食痕あり(本)
シナノキ	15	
トドマツ	15	
オニグルミ	1	
ハウチワカエデ	1	
ミズナラ	1	
全体	33	

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数	現存量 (㎡/㎡)	被度 (%)	平均高さ	食痕有無
クマイザサ	20	1.150	70.5	162.0	
ハイヌガヤ	12	0.223	17.3	92.3	
ツタウルシ	16	0.031	13.6	21.2	
トドマツ	1	0.007	1.0	73.0	
ツルアジサイ	8	0.007	3.3	19.5	
全体		1.433	79.0		

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



調査区留萌南部15は、樽山林道沿いに位置する広葉樹林に設定している。尾根上の平坦地で、エゾイタヤ、シナノキなどが見られる。可食種のうち下枝がある立木はアカイタヤなど7本/200㎡と少ない。下枝食痕、樹皮剥ぎはいずれも確認されなかった。

稚樹は、シナノキを中心に9本/200㎡と低密度で、食痕は見られない。林床は、全体被度が79%を占め、クマイザサの被度が70%を越え優占する。他には忌避種とされるハイヌガヤやツタウルシ、トドマツなどが散生する。現存量はササを除いた可食種が0.02と小さく、忌避種は0.26と大きな値である。下枝、稚樹の食痕、樹皮剥ぎも確認されないことから、全体にエゾシカの影響はほとんど見られないと思われる。

留萌南部16の結果概況

地区名: R04幌糠

115林班か小班

8月01日調査実施

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
針広混交林	緩斜面	西	2	4	2009年 -	累積 4.8	足跡
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率 (新規)	
	28 /200㎡	37.8 ㎡/ha	11 /200㎡	食痕: 0/11 0%	9 /200㎡	0/36	0%(0%)
稚樹	本数密度	食痕数 (新規)、食痕率		林床 種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 ㎡/㎡ [全体・忌避種・可食種]	
	7 /200㎡	0/13	0%			6	71%・156.6・35%

※稚樹は樹高20cm以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝あり (本)	樹皮剥(本)
ミズナラ	5	11,486	1	
アカイタヤ	7	1,604		
トドマツ	20	1,497	8	
ハウチワカエデ	22	494	18	
ホオノキ	2	42	2	
全体	56	15,122	29	

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	食痕あり(本)
ハウチワカエデ	12	
トドマツ	9	1
アカイタヤ	1	
全体	22	1

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数	現存量 (㎡/㎡)	被度 (%)	平均高さ	食痕有無
クマイザサ	20	0.959	66.0	143.3	○
チシマザサ	4	0.197	9.5	209.0	
ツルシキミ	10	0.011	3.4	28.5	
ハウチワカエデ	1	0.006	0.5	115.0	
ハイヌガヤ	2	0.003	0.8	42.5	
全体		1.176	74.5		

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



調査区留萌南部 16 は、峠沢林道沿いに位置する針広混交林に設定している。緩斜面で、針葉樹はトドマツ、広葉樹はミズナラやアカイタヤなどが見られる。林内では、シカの足跡を確認している。可食種のうち下枝がある立木はハウチワカエデを中心に 11 本/200㎡である。下枝食痕、樹皮剥ぎは確認されなかった。

稚樹はハウチワカエデを中心に 7 本/200 ㎡で低密度である。食痕は、可食種では見られない。林床は、全体被度が 74.5%で、クマイザサが優占し、チシマザサが混在する。食痕はクマイザサに見られ、食痕率は 35%を占める。現存量はササを除いた可食種、忌避種ともに 0.01 とほとんど見られない。足跡が確認され、ササ類食痕率も 30%を越えるが、下枝、稚樹の食痕、樹皮剥ぎも確認されないことから、全体にエゾシカの影響はほとんど見られないと思われる。

留萌南部17の結果概況

地区名:R04幌糠

104林班に小班

8月05日調査実施

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
広葉樹林	斜面	南西	1	1	2009年	-	累積 - なし
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	30 /200㎡	14.9 ㎡/ha	18 /200㎡	食痕: 0/18 0%	9 /200㎡	2/23	9%(0%)
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 ㎡/㎡[全体・忌避種・可食種]
	8 /200㎡	0/4	0%	7	88%・154.5・0%	1.49	・0.03(0.2)・ 0.13

※稚樹は樹高20cm以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	総BA (cm ²)	下枝あり(本)	樹皮剥(本)
ミズナラ	12	2,424	8	
トドマツ	6	233	4	
ハリギリ	1	129		
アズキナシ	1	72	1	
ダケカンバ	1	52	1	
全体	30	2,987	22	2

※総BAは胸高直径断面面積の総和。

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	食痕あり(本)
トドマツ	25	
オオバボダイジュ	2	
ハウチワカエデ	2	

全体	29
----	----

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数	現存量 (㎡/㎡)	被度 (%)	平均高	食痕有無
クマイザサ	20	1.310	86.5	151.8	
ノリウツギ	4	0.131	6.0	182.3	
チシマザサ	1	0.021	1.0	210.0	
トドマツ	3	0.015	2.0	75.7	
ツタウルシ	13	0.013	6.2	19.6	
全体		1.491	90.0		

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



調査区留萌南部17は、チバベリ106号林道沿いに位置する広葉樹林に設定している。斜面地形で、ミズナラが多く見られる。下枝がある立木はミズナラを中心に18本/200㎡で、食痕は見られない。樹皮剥ぎは古い樹皮剥ぎのみで、9%を占める。

稚樹は、可食種ではオオバボダイジュとハウチワカエデの2種で8本/200㎡と少なく、食痕は見られない。林床は、全体被度が90.0%を占め、クマイザサが優占する。他には、忌避種とされるトドマツやツタウルシが散生する。ササを除く可食種の現存量は0.13で忌避種は0.03とわずかである。古い樹皮剥ぎがわずかに確認されるが、下枝や稚樹の食痕、新規樹皮剥ぎも確認されないことから、全体にエゾシカの影響はほとんど見られないと思われる。

留萌南部18の結果概況

地区名: R05増毛

68林班つ小班

7月22日調査実施

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
広葉樹林	斜面中～下部	南西	1	1	2009年 9.7	累積 5.7	なし
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	112 /200㎡	38.2 ㎡/ha	54 /200㎡ 食痕: 0/54 0%		55 /200㎡	1/102 1%(0%)	
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 ㎡/㎡[全体・忌避種・可食種]
	88 /200㎡	12/44 27%		28	16%・116.8・0%	0.46・0.07(0.4)・0.18	

※稚樹は樹高20cm以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	総BA (cm)	下枝あり(本)	樹皮剥(本)
シラカンバ	2	1,957		
ミズナラ	13	1,202	5	
アカイタヤ	15	1,039	7	
シナノキ	10	1,038	3	
アズキナシ	13	775	6	
全体	112	7,643	61	1

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	食痕あり(本)
ハウチワカエデ	19	10
トドマツ	12	
ヤマウルシ	10	1
ツリバナ	4	3
アカイタヤ	3	1
全体	56	17

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数	現存量 (㎡/㎡)	被度 (%)	平均高さ	食痕有無
クマイザサ	11	0.205	15.6	116.8	
オオカメノキ	13	0.064	8.1	43.0	
ツノハシバミ	2	0.042	3.5	120.0	○
コマユミ	11	0.033	2.8	53.1	○
トドマツ	5	0.025	2.5	42.6	
全体		0.455	50.0		

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



調査区留萌南部18は、茶々の沢林道沿いに位置する広葉樹林に設定している。斜面地形で、シラカンバやミズナラが見られる。下枝がある立木はミズナラやアカイタヤなど54本/200㎡と多く、食痕は確認されなかった。樹皮剥ぎは古い樹皮剥ぎのみで、1%に見られる。

稚樹はハウチワカエデ、ヤマウルシなど88本/200㎡と比較的密度は高く、食痕はハウチワカエデを中心に27%見られる。林床は、全体被度が50%を占め、被度は低いもののクマイザサが優占し、他にはオオカメノキ、ツノハシバミなどが散生し、食痕はツノハシバミとコマユミに見られる。現存量はササを除く可食種が忌避種の2倍以上を占める。下枝の食痕や新規の樹皮剥ぎは見られないものの、稚樹の食痕が20%を越え、林床の食痕もわずかに見られることから、全体にエゾシカの被食による影響が出始めていると思われる。

留萌南部19の結果概況

地区名:R05増毛

53林班お小班

8月08日調査実施

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
針広混交林	尾根	東	2	1	2009年 -	累積 4.0	なし
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	32 /200㎡	51.6 ㎡/ha	11 /200㎡	食痕: 2/11 14%	8.5 /200㎡	0/46	0%(0%)
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 ㎡/㎡[全体・忌避種・可食種]
	124 /200㎡	6/62	10%				

※稚樹は樹高20cm以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	総BA (cm)	下枝あり(本)	樹皮剥(本)
トドマツ	15	7,969	4	
キハダ	11	4,649	3	
ハリギリ	6	2,438		
エゾノバッコヤナギ	2	1,979	1	
シナノキ	15	1,792	10	
全体	63	20,625	25	

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	食痕あり(本)
シナノキ	33	5
アカイタヤ	11	
オオバボダイジュ	3	1
ハウチワカエデ	3	
ヤマグワ	3	
全体	62	6

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数	現存量 (㎡/㎡)	被度 (%)	平均高さ	食痕有無
チシマザサ	20	1.247	51.8	235.9	
コマユミ	5	0.063	4.8	73.8	○
シナノキ	5	0.047	4.3	92.0	
イワガラミ	15	0.028	12.9	20.9	
オオカメノキ	4	0.015	2.6	45.0	
全体		1.493	73.0		

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



調査区留萌南部19は、道道増毛稲田線から入る作業道沿いに位置する針広混交林に設定している。尾根上で、トドマツ、キハダが多く見られる。可食種のうち下枝がある立木はキハダやシナノキなど11本/200㎡で、そのうち14%に食痕が見られる。樹皮剥ぎは確認されなかった。

稚樹は、シナノキを中心に124本/200㎡と高密度に生育し、そのうち10%に食痕が見られる。林床は、全体被度が73.0%を占め、49種と多くの種を確認している。チシマザサが優占し、食痕はコマユミに見られる。他にシナノキやイワガラミ、オオカメノキなどが生育する。ササを除いた可食種の現存量は0.19と比較的大きく、忌避種の割合は低い。下枝、稚樹の食痕率がわずかに見られるが、樹皮剥ぎは確認されず、全体にエゾシカの影響はほとんど見られないと思われる。

留萌南部20の結果概況

地区名:R05増毛

13林班い小班

8月02日調査実施

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
針広混交林	平坦地	-	1	1	2009年 1	累積 2.1	なし
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	33 /200㎡	64.7 m ² /ha	14 /200㎡ 食痕: 0/14 0%		5 /200㎡	0/26 0%(0%)	
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m ² /m ² [全体・忌避種・可食種]
	54 /200㎡	0/27 0%		15	22%・176.0・47%	1.05・0.07(0.1)・0.54	

※稚樹は樹高20cm以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	総BA (cm ²)	下枝あり(本)	樹皮剥(本)
ミズナラ	2	4,955	1	
トドマツ	4	3,922	3	
アカイタヤ	9	1,721	3	
ナナカマド	11	1,403	7	
ダケカンバ	3	625		
全体	33	12,943	17	

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	食痕あり(本)
ナナカマド	14	1
トドマツ	13	
オガラバナ	5	
アカイタヤ	3	
コシアブラ	3	
全体	40	1

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数	現存量 (m ² /m ²)	被度 (%)	平均高さ	食痕有無
オオカメノキ	19	0.497	41.8	108.6	○
チシマザサ	17	0.446	21.8	176.0	○
ツタウルシ	16	0.047	15.1	25.1	
ナナカマド	2	0.030	1.6	109.5	○
シラネワラビ	14	0.019	7.0	23.1	
全体		1.054	72.0		

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



調査区留萌南部20は、箸別非難小屋奥の暑寒別岳登山道沿いに位置する針広混交林に設定している。平坦地で、針葉樹はトドマツ、広葉樹はミズナラやアカイタヤなどが見られる。下枝がある立木はナナカマドを中心に14本/200㎡である。下枝食痕、樹皮剥ぎともに確認されなかった。

稚樹はナナカマドを中心に54本/200㎡と比較的密度が高い。林床は、全体被度が72.0%を占め、オオカメノキが優占し、次いでチシマザサ、忌避種とされるツタウルシが目立つ。チシマザサは47%に食痕が見られ、他にオオカメノキやナナカマドにも食痕が見られる。ササ類を除く可食種現存量が0.54と大きく、忌避種はわずかである。林床の食痕は見られるものの、下枝や稚樹の食痕、樹皮剥ぎは確認されず、全体にエゾシカの影響はほとんど見られないと思われる。